

人工関節の名医に聞く！ 「人工股関節置換術」について

教えてくれる先生

やまもと せいぞう

山本 精三 先生

岩井整形外科病院 非常勤医師

虎の門病院整形外科特任部長

昭和大学 医学部 客員教授



Q 人工股関節置換術とは、どのような疾患に対しておこなう手術ですか？

変形性股関節症、関節リウマチ、大腿骨頭壊死症などですね。中でも最も多いのが、変形性股関節症の症例です。

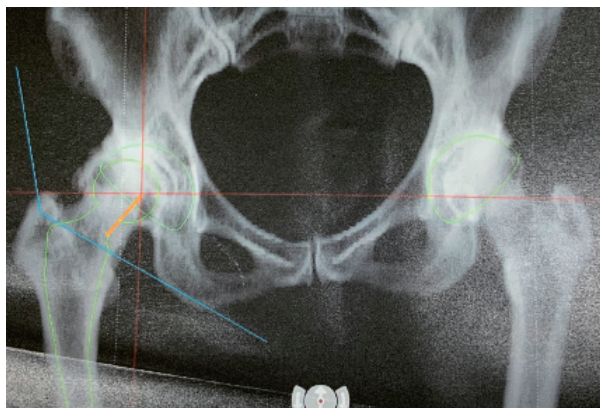
Q 変形性股関節症は、どのような疾患ですか？

変形性股関節症とは、股関節の軟骨がすり減って変形してしまうという疾患です。初期は立ち上がる際や歩き初める際に、足の付け根の痛みを感じます。変形が進行すると、夜間寝ていても痛みを感じる場合や、寝返りをするとズキンとした強い痛みが出ることもあります。

日常生活の面では、足の爪切りや靴下を履くなどの動作が取りづらくなります。或いは正座や和式トイレの姿勢を取りづらくなるなど、生活に支障をきたすことも多いです。

Q なぜ変形性股関節症になってしまうのでしょうか？

変形性股関節症の患者さんは、女性が大半です。なぜならば女性は発達上、臼蓋（きゅうがい）形成不全という股関節の発育不全が出現することが多いのです。股関節の病気のうち8割程度が、この臼蓋形成不全によるものであると言われています。臼蓋形成不全がなくても変形性股関節症になる方はいらっしゃいます。



▲ 手術前には 3D ソフトを用いて
綿密な手術計画を立てる

Q 人工股関節置換術を受ける際、合併症などのリスクはありますか？

この手術を受ける方の中には、高齢の方も多くいらっしゃいます。一般的な他の手術と同様に、脳梗塞や脳出血、狭心症、心筋梗塞などのリスクがあります。重篤な合併症としては深部静脈血栓症にも気を付けなくてはなりません。これは下肢の静脈に血の固まりが詰まってしまうことです。さらにその固まりが肺に飛んでしまう肺塞栓も考える合併症です。その他に手術部位の感染症や脱臼の可能性もあります。

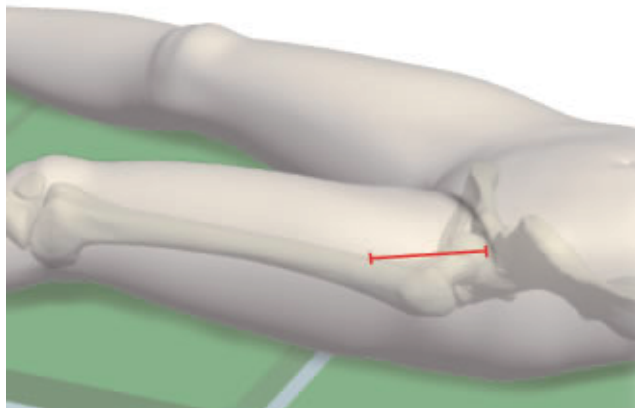
Q 人工股関節にすると、脱臼に注意が必要ということでしょうか？

いい質問ですね。人工関節にすると、それまで関節部分に感じていた痛みを感じなくなります。そうすると、ついつい無理な姿勢を取ってしまうことがあるのです。正常の範囲内の動きで脱臼することはありませんが、とても深く曲げたり、ねじったりすると脱臼してしまいます。私のおこなう手術は、脱臼を引き起こしにくくなる方法を採用しています。

Q 脱臼のリスクを軽減する手術とは、どのような方法ですか？

実は股関節の脱臼は、後方脱臼が多いのです。しゃがむ姿勢や体育座りの姿勢をとる際、人工関節が後ろにずれてしまい、脱臼になるということです。従来の手術は後方アプローチといって股関節の後ろ側を切開しておこなう方法でした。しかし、この方法ですと股関節の後ろ側の筋肉や腱を切開することになりますので、手術後に脱臼しやすくなってしまいます。そこで私は、前方アプローチと呼ばれる、股関節の前側を切開しておこなう手術を採用しました。

前方アプローチでは、筋肉組織をほとんど切開しません。股関節の後ろにある筋肉や腱を温存できるので、脱臼のリスクがかなり軽減されるということです。前方アプローチで手術を行った場合、脱臼のリスクは1%以下であるとされています。



前方アプローチの切開位置

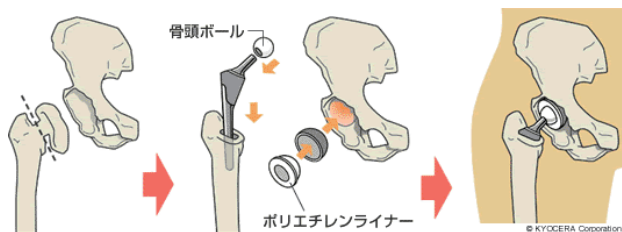
Q 前方アプローチでの手術はメリットばかりのようですね。デメリットはないのですか？

我々医師にとって前方アプローチは、技術の習得がより難しく、慣れるまでに時間がかかります。しかし、熟練した医師による手術でしたら、患者さんにとってのメリットは非常に大きいのではないのでしょうか。

Q つまり、難しい手術ということなのですか？

股関節の前方内側には、大腿神経と大腿外側皮神経という2つの神経が走っています。もちろんその神経を切ってしまうということはありません。しかし手術の際に切開を広げようとすると、それらの神経が圧迫され、術後一時的に麻痺や痺れを感じる場合があります。

とはいえ先ほどにも申し上げました通り、筋肉や腱を温存する手術方法ですので、術後の回復はとても早いです。



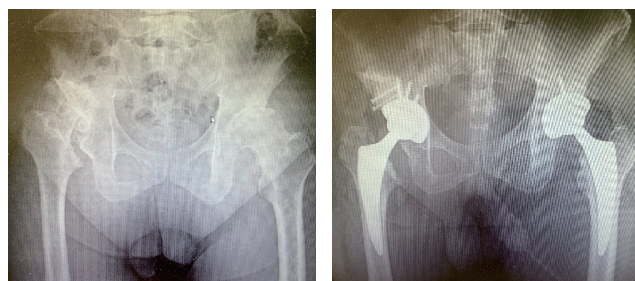
▲ 近年は人工股関節製品の技術も進歩しており以前より耐用年数が長くなっている

Q 回復までにはどれくらいの期間がかかりますか？

この手術では股関節を人工のものに置き換えますが、股関節を動かすための筋肉まで取り換えるわけではありません。手術前、痛みのためにあまり動かさず過ごしていた方は、筋力が回復するまでに時間がかかります。反対に頑張って歩いていた方は、術後の回復が比較的早いですね。当院では手術1週間後にもう一度私が拝見し、問題がなければその翌日に退院するといった流れになることが多いです。大切なのは、痛みにより股関節が動かしにくいという状態を長く放置しないことです。無理をして股関節を動かし続けていても、痛みがよくなることはありません。むしろ骨が削れ、股関節の破壊が進んでしまうこともあるのです。股関節の破壊が進んでしまった方は、手術を受けても筋力の回復に期間を要してしまいます。

Q 退院する時には痛みがすっかり取れた状態で帰ることができるのでしょうか？

手術前に股関節を伸ばせなかった方でも、手術日の夕方には立ち上がり、リハビリを開始できるようになることもあります。手術前の状態が悪い患者さんほど、非常によくなったと言ってくださいますね。



▲ 人工股関節置換術（両側）を行った患者さんの手術前後のレントゲン写真

Q 長く悩まれるよりは、まず一度受診してみるとよいのですね。

そうですね。手術の適応があるのでしたら、先延ばしにしないことをお勧めします。その方が、間違いなく手術を受けた後の回復が早いです。

手術となると患者さんはいろいろなことを心配されますよね。しかし、例えば輸血をするかどうかというご心配があるのでしたら、今の手術は9割以上輸血なしで行うことができます。

このように、昔のイメージよりも今の手術はもっと侵襲（身体への負担）が少ないのです。

長く痛み悩まれた方に手術をおこなうと、「こんな手術ならもっと早く受ければよかった」とおっしゃっていただけることが非常に多いです。

手術の適応は、患者さんがどの程度痛みを感じているかと、MRIやレントゲンなどの検査結果から総合的に判断します。

股関節の痛みにより生活に支障をきたしている方は、ぜひ一度ご相談にいらしてください。



山本精三医師の外来診察は、**金曜午後**です。予約不要ですので、受診を希望される方は受付時間内（13：30～16：00）にご来院ください。



IWAI GROUP

一歩先のスタンダードへ

岩井整形外科病院

IWAI ORTHOPAEDIC HOSPITAL